

なぜ日本では太平洋側が栄えたのか？

御津中・2 久保田 伊玖

0、研究の動機

我々が住んでいる愛知県では、自動車産業が盛んであり、日本においては屈指の経済力を誇っている。他に経済力のある都道府県を見てみると、上位に東京都、大阪府、神奈川県などが挙げられる。そして、これらのランキングを見ていくと、太平洋側の都道府県が上位に位置していることが見受けられる。

この事実を踏まえ、私はなぜこのように太平洋側に偏っているのかが気になった。なので、私はこれらのことについて調べ、考えることとした。

1、前提

〔一〕、太平洋側と日本海側の定義

まず、本題について考える前に、日本において太平洋側と日本海側の区切れはどこであるか定義しなければならない。早速定義したところであるが、実はこの定義は明確にはなされてはいない。ところどころであるが、太平洋側と日本海側という大雑把すぎるこの区分を、明確に分けること自体間違っているからだ。しかし、定義しないと何も始まらない。よって、私は気象庁が使用する、季節予報に用いるものを用いることとした。

〔二〕、太平洋側と日本海側の比較

始めに、これら二つの地域の人口と面積を調査し、比較することにした。すると、人口は二〇二一年度では、日本の人口約一億二千七百四十万人に対し、太平洋側は一億二百十三万人、日本海側は二千四百五十七万人であり、面積は太平洋側が二十三万七千十六平方キロメートル、日本海側が十三万八千六百七十八平方キロメートル

であった。人口と面積のいずれも太平洋側の方が多く、人口密度も太平洋側が約四百三十三人毎平方キロメートル、日本海側が約百七十七人毎平方キロメートルと、人口密度の観点においても太平洋側の方が多いことが分かる。これらの理由には、太平洋側に大規模な都市が多いことが挙げられる。現に、日本における政令指定都市二十都市のうち、十五都市が太平洋側に位置し、首都の東京でさえも太平洋側に位置する。

依然、これだけ人口が多いと、必然的に産業や交通なども発展する。産業では、太平洋ベルトと言われる工業地域が高度経済成長期に形成され、日本を世界有数の経済大国に押し上げた。そして、それに伴って太平洋ベルト沿いに高速道路や新幹線などが建設され、太平洋側では高速交通網が十分に整備されたのである。しかし、それに比べ日本海側では、あまり産業は発展せず、第一次産業の従業者数の割合が高い。さらに、日本海側にはあまり高速交通網が整備されていないことが分かる。

以上のことから、様々な観点から総合的に見ても、日本海側より太平洋側の方が栄えていると言えるだろう。

2、太平洋側が栄えた地理的要因

〔一〕、双方の地形

栄えた理由を探るにあたって、初めに地理的な観点から考えることとした。日本という国はそもそも、山脈や山地の占める割合が高く、平野部が少ない。そして、日本を分けるが如く、「日本の背骨」と言われるように中央部に沿って山脈が連なっており、そこを源流として多くの河川が流れている。この山脈より南側を太平洋側、北側を日本海側と一般的に言うのである。これより地形を調べてみると、太平洋側には関東平野や濃尾平野、大阪平野などの開けた広大な地形が存在し、0メートル地帯と言われる場所も存在する。さらに、海が深く入り組んでおり、東京湾、伊勢湾、大阪湾といった湾も多数存在する。湾というのは、前述した通りただの海より入り組

んでおり、周りが陸地に囲まれているので、風の影響を他の海より受けにくい。なので、船などで貿易する際も他の臨海部よりもしやすいと考えられる。しかしそれと比べ、日本海は平野部は少なくはないが、太平洋側より少なく、海岸部は砂浜が多くあり工業地域を形成するには向いていない。これらのことから、地形は太平洋側の方が開発しやすいと、利用しやすいと考えられる。

〔二〕、双方の気候

日本は主に温帯の温暖湿潤気候に属し、一年を通して比較的温暖である。これをさらに細かく分けると、六つに区分できる。その中の太平洋側の気候は年間降水量が多く、六月から九月にかけて雨が多く降る。日本海側の気候は冬に冷え込み、冬に多くの雪が降る。これらの理由は、季節風が夏には南東から、冬には北西から吹き込み、前述した日本の背骨である山脈にあたり雨を降らすためである。なので、冬に太平洋側は乾いた風が吹き、夏に日本海側では乾いた風が吹くのである。述べたとおり日本海側は冬に多く雪が降り、積もる。これによって交通が麻痺することもあり、冬の暮らしはとても大変であり、労力のかかるものである。一概には言いきれないが、冬に降り積もる雪は日本海側の発展を妨げている一つの要因であると言えるのではないだろうか。

〔三〕、自然災害とその影響

二つの地域を比べる上で、自然災害の影響も加味しなければならぬだろう。日本で起こり得る自然災害としては、台風、地震、津波、火山活動、豪雨などが有名なものとして挙げられる。この中の台風、豪雨というのは毎年どこかしらで発生している。この災害によって、氾濫による浸水、土砂崩れ、停電などが起き、インフラが破壊され、多大な被害を被る。さらに、農作物にも被害が及び、凶作にもなり得る。これらにより、地域の経済は多くの損失を受け、復旧に膨大な時間を要することとなる。これは、地震においても言え、二〇一一年に発生した東日本大震災では多くの人々が亡くなり、

現在でさえもその影響を受けている人々がいる。このような災害は日本全国で起きるものだが、台風や豪雨の被害は太平洋側で多く見られる傾向にある。逆に、やはり雪害が日本海では多く見られる。災害という面では、太平洋側と日本海側のどちらも多く、優劣はつけられないだろう。

今回調査した地理的要因では、総合的に見ると、太平洋側の方が日本海側より利点が多く、開発しやすく発展しやすい土地柄であり、優位性があると言いうことができるであろう。

3、太平洋側が栄えた歴史的要因

〔一〕、歴代の都の位置

次に、歴史的な観点から考えてみることにした。まず、日本という国は二千年以上もの歴史を誇る国である。その中では、何かしらの要因によって遷都され、政治の中心地を移すということがしばしば行われてきた。歴代の都の位置を見てみると、ヤマト王権が古来から中心地としてきた京都や奈良などの畿内が千年以上にも渡って都がおかれてきたことが分かる。しかし、今日までずっと政治の中心地であったわけではない。十二世紀になると、源頼朝が武士政権として鎌倉幕府を鎌倉に開いたからだ。だが、始めは完全に鎌倉が政治の中心地であるかというところではなく、朝廷と幕府の力は同じくらいであったため、政治の中心地は鎌倉と京都に二分化していた。しかしその後、朝廷と幕府の間で対立が深まり承久の乱が勃発し、幕府側が勝利すると、政治の中心地は完全に鎌倉となった。鎌倉は現在の神奈川県であるから、関東地方に中心地が置かれたことになる。鎌倉幕府が倒された後は、足利尊氏が京都に室町幕府を開いたことから、再び畿内に中心地が移ったが、織田信長が室町幕府を滅ぼし、戦国の世が終わってからは徳川家康が江戸に江戸幕府を開き、またもや関東に中心地が置かれた。この二つの時代では関東に政治の中心地が置かれていたが、依然京都には朝廷が置かれており、繁栄していた。この二つの都市間には交流がないはずがなく、

常に交流や物流の流れが生じていた。これらを活発に、滑らかに行うために江戸幕府によって整備されたのが五街道である。特に、東海道と中山道は活発に利用され、通り沿いに宿場が整備されていた。そして、通り沿いの町は発展していき、江戸から京都の間は大発展を遂げたのである。同時にこの時期に大阪も大発展を遂げ、「天下の台所」と呼ばれるまでになったのだ。つまり、都が京都に置かれ、政治の中心地が関東に置かれたことが太平洋側を栄えさせた一つの要因と言えるだろう。それから長い年月を経て、十九世紀、江戸幕府が倒されると、明治維新と言われる大改革が行われ、天皇も江戸に住むようになり、江戸が東京という名称に変更された。そしてその大改革により日本は飛躍的な発展を遂げ、世界の覇権国のうちの一つとなった。国内にも西洋の文明がもたらされ、日本初の鉄道が新橋―横浜間に開業し、後に東海道、つまり太平洋側に沿って神戸まで延長された。これによってさらに太平洋側が栄えることとなり、戦後には新幹線、高速道路が整備され工業地帯が形成されたことによつて、世界有数の工業地域にまで発展した。

このように、栄えたことの裏にはいくつもの要因が重なり合っていることが分かり、その中でも何千年以上も昔の出来事は後世に多大な影響を及ぼすということもこのことから考えられた。

4、太平洋側が栄えた政治・貿易的要因

〔一〕、日本の貿易相手の変化

最後に、政治・貿易的な観点から考えてみることにした。日本という国は、古くから諸外国との貿易や交流を行ってきた。文献に見られる初めての海外との貿易は、五七七年に奴国が現在の中国である後漢に朝貢し、金印を授けられたというものだ。日本は二千年もの前から貿易を行っていたことが分かる。それからも日本は引き続き中国と貿易し、朝鮮半島の国々とも貿易した。これらの貿易は、主に現在の福岡市にあたる博多、太宰府で行われた。太宰府は「遠の朝廷」と称されることもあり、この時点では大陸側に近い日本海側

で貿易が行われていたことが分かる。しかし、十二世紀に入ると、平清盛が大輪田泊、現在の神戸で日宋貿易を始めた。その後、十五世紀に足利義満が始めた勘合貿易では博多と境が貿易港として栄えた。一五四三年、ポルトガルがヨーロッパ諸国として初めて日本に來航キリスト教やヨーロッパの文明が伝えられ、その後続々とヨーロッパ諸国との貿易、通称南蛮貿易が始められた。この南蛮貿易はヨーロッパ諸国は東南アジアを介して貿易を行ったため、新たに長崎が貿易港として栄えた。その後、江戸幕府が成立し、朱印船貿易を奨励すると東南アジアに日本町が作られた。だが、徳川家光による鎖国政策が完成すると、貿易相手は中国、オランダだけに限定され、貿易港も長崎だけに限定された。これによって海外との交流は減ったが、日本国内においての水上交通が栄えた。特に西廻り航路、東廻り航路、南海路が発達し、全国各地の港もそれによって発達した。十九世紀ごろ、鎖国政策を取っていた日本にイギリス、ロシアなどの西洋列強が接近してくると、日本はこれらの対応に追われるようになった。そんな中、一八五三年にアメリカのペリーが浦賀に來航すると開国を迫られ、日米和親条約や日米修好通商条約を結ばされた。これにより、日本は約二百年ぶりに開国することとなった。この時に箱根、江戸、横浜、下田などが開港され、これ以降重要な港となつていった。それからは西洋諸国とも条約を結び、世界の様々な国と貿易を行うようになった。第二次世界大戦中には貿易が停止されたが、戦後には再度国交を結び、今日では日本は百九十四カ国と貿易を行っている。

まとめると、日本は古来、中国や朝鮮などの近隣の国々と貿易をしていたが、時代が進むごとにオランダやアメリカ、イギリスなどの日本から離れた国と貿易をするようになっていったことが分かる。そして、それに伴い主要な港も徐々に日本海側から太平洋側に移つていったと考えられた。

〔二〕、日本と諸外国の関係性

日本は先ほど述べたとおり、百九十四カ国と国交が樹立している。しかし、国交をまだ結んでいない国も存在する。その一例が朝鮮民主主義人民共和国、通称北朝鮮だ。この国は、地理的にも近く歴史的にも関係深いにもかかわらず、未だに国交を結んでいない。それは、核開発や拉致をくり返しており、非常に脅威的な国だからだ。

このことは国際的にも問題になっている。そして、その近隣のロシア、中国も同様に高圧的な態度をとっているため国際問題になっている。これら二つの国はいずれも、すべて日本海側に位置している。つまり、日本にとって脅威になり得る国が日本海側にはいくつか存在するのだ。これは大変な問題であろう。それとは打って変わって、日本との関係が友好的な国も多数存在する。その中の一つがアメリカだ。アメリカは、日本の輸出・輸入先でも第二位という高い順位となっており、開国後から盛んに貿易を行っている。地図を見ると、輸出・輸入先上位の国は日本の南西や西に多く位置している。つまり、これらの国から日本に輸出品を運搬するときには、太平洋側の方が貿易をしやすいと考えられる。

このようなことから、政治・貿易的な観点から見ても太平洋側の方が秀でていることが分かる。

5、結論

地理的・歴史的・政治・貿易的な観点から見ると、様々な要因から太平洋側が栄えたことが考察できた。この中の一つの要因でも欠けていたら、太平洋側は現在ほど栄えていなかったかもしれない。たった一つの小さなことでも未来は大きく変わるのだ。

現在、日本は少子高齢化が進んでおり、産業の発展も滞っている。このまま衰退の一途を辿るかどうかは、未来の自分たちの行動の一つ一つにかかっている。自分の存在価値はない、と思いつまらず、自分のできることを一つ一つを考え、行動していくことが今後の日本の運命を変える第一歩になるのではないだろうか。

【参考文献】

- ・ 山川詳説日本史図解（山川出版社）
- ・ 新しい社会地理（東京書籍）
- ・ 中学校社会科地図（帝国書院）